



博物館書目解題畧

四

152  
273  
4



門  
號 273  
卷 4



博物館書目解題略卷四

政書類 附公事

太子憲法一卷 寫本

日本書紀推古天皇紀ニ曰ク十二年夏四月丙寅朔戊申

令皇太子厩戸皇子親ラ肇テ憲法十七條ヲ作ルト卽是ナリ此ノ

本ハ書紀中ヨリ抄出シテ單行セシメシモノナリ

令義解十卷 刊本

清原夏野等勅ヲ奉ジテ撰ヌ文武天皇大寶元年藤原不

比等勅ヲ奉ジテ令ヲ撰ヌ此ノ書ハ其ノ注解ニシテ禁

村山徳淳編輯



冊

中ノ公事諸國ノ賦役其ノ他諸禮節ヲ定メタルモノナ  
リ都テ唐ノ開元令ヲ增損シテ編輯セリ夏野是ガ總裁  
タリト雖ヘドモ多クハ小野篁ノ手ニ出ヅトイフ卷首  
ニ編輯者ノ官銜ヲ列ネ詔書上表等ヲ載セタリ

令義解十卷 刊本

十冊

此ノ本ト塙檢校保己一ノ校刻スル所ノモノナリ寛政  
十二年ノ奥書ニ云ク右令義解十卷紅葉山御文庫古本  
水戸殿校本松浦家及稻葉通邦ノ藏本ヲ以テ之ヲ校正  
シ畢マトアリ

令集解三十六卷 寫本

二十冊

惟宗直本撰ス此ノ書令義解ニ較レバ其ノ解頗詳ナリ

然レドモ義解ト異ナルコト多シ序跋ナシ

應撰定律問答私記二卷 寫本

二冊

此ノ書ハ令抄ナリ奥書ニ曰ク文明第八曆小春中旬全  
部十卷書寫セシメ已後禪閣御説ヲ受奉リ同ク鈔出レ  
少クツク寫シテ功ヲ訖フ法務前大僧正嚴寶トアリ又  
後成恩寺殿御抄ナリ外見アル可ク秘スベシ親衛大  
將藤原朝臣判トアリ延寶七年林恕ノ跋ニ曰ク右令抄  
解嚴寶兼良公ノ説ヲ受テ而シテ冬良公手書ヲ末ニ加  
フルトキハ則實ニ是一條家ノ秘傳疑ナキ者ナリ妄ニ

漏ス可ラズ書寫一技ノ次嚴寶ノ出處及冬良大將ニ任  
 ズルノ年月ヲ勘ヘ帖末ニ附シ新タニ之ヲ名ケテ淡海  
 餘波ト曰フモノハ令ハ淡海公ノ撰ニシテ一條家其ノ  
 餘流タルニ依テナリ又曰ク法曹至要抄混ジテ中間ニ  
 アリ今改テ與書ノ後ニ附シテ以テ別帖タルヲ示スト  
 標註令義解校本六卷 刊本 六冊  
 近藤芳樹撰ス此ノ書僅ニ第三卷ニシテ止ム初卷ニ令  
 ノ開題ヲ錄スル尤詳ナリ序跋ナシ元治元年刊本  
 律三卷 寫本 三冊  
 名例衛禁職制賊盜ノ四篇ノ殘缺ナリ

衛禁律殘缺一卷 刊本  
 源元寬曰ク謹テ按ズルニ淡海藤文忠公撰スル衛禁律  
 今存スルモノ僅ニ拾肆條ナリ中ニ唐律疏義及令集  
 解政事要略等引ク所ニ較テ恐クハ猶前十餘條ヲ  
 闕キタリ而シテ復得テ考テ可ラズ尤モ惜ムベシトス  
 律逸八卷 寫本  
 編輯者ノ名氏ヲ著サズ本邦ノ律全ク傳ラズ因テ其ノ  
 文ノ法曹至要抄政事要略等ノ諸書ニ存スルモノヲ抄  
 輯シテ八卷トシテ其ノ目録名

例下、衛禁、戸婚、廐庫、擅興、鬪訟、詐偽、雜律、捕亡、斷獄、十篇ナリ  
ノ序跋ナシ要抄律要御書、新書、律、令、格式、其  
律裏書一卷 寫本

律ノ注釋ナリ此ノ書僅ニ三十餘條ニ過ギス奥書ナシ  
法曹類林二卷 寫本

藤原通憲撰ス仁和寺書目ニ云ク法曹類林二百三十卷  
法曹勘文類聚集ニ通憲ノ今案ヲ加フ云ヤト今存スル  
モノ殘缺二卷ニシテ卷第百九十二寺務執行十七卷第  
二百公務八座次二是ナリ卷末ニ嘉元二年六月八日書  
寫校合シ畢又貞顯トアリ按ズルニ貞顯ハ金澤越後守

ニシテ原本ハ金澤文庫ノ本ナリ  
法曹至要抄三卷 刊本

仁和寺書目ニ明法博士坂上兼明撰スト見エタリ長春  
ノ序ニ曰ク此ハ法曹至要ハ律令格式ノ最要ナリ當初  
大臣不比等冬嗣氏宗時平公各勅ヲ受テ撰スル所ナリ  
此ノ書繁多ナルニ依リテ省略抄書セシメテ之ヲ集ム  
云ヤトアリ寛文二年刊本

法家引用一卷 寫本  
撰人名氏ヲ著サズ刑法ノ事ヲ記セルモノナリ序跋

類聚三代格六卷殘編三卷 刊本

十六冊

此ハ書ハ禁中代々令號條件ノ其ノ時ニ依リテ異同アリ増損アルコトヲ記セルモノナリ弘仁貞觀延喜三代ノ格ヲ合シテ類聚三代格トナス然レドモ多クハ佚亡シテ傳ラズ今存スルモノ殘缺六卷ナリ原本弘仁格十卷藤原冬嗣等勅ヲ奉シテ撰ス貞觀格十二卷藤原氏宗等勅ヲ奉シテ撰ス延喜格十一卷藤原時平等勅ヲ奉シテ撰ス各序アリ共ニ此ノ書ノ初メニ載セタリ弘化二年植松茂岳ノ奥書ニ曰ク右類聚三代格第一第三第五第七第八第十二ノ六卷ハ本邦官庫ニ藏スル所ナリ稻

葉通邦校本岡田啓藏本又得ル所京師一本及國史律令等ヲ以テ謹テ之ヲ校讐シ畢又世ニ存スル六卷ノ外ニ第四第十五第十六三卷ヲ得タルヲ以テ殘篇ト稱スルナリ奥書ニ曰ク第十五第十六二卷ハ齋部親成得ル所ノ古本殘篇ナリトアリ

偽類聚三代格考二卷 寫本

荷田春滿撰ス序跋ナシ

貞觀儀式十卷序目一卷 寫本

此ハ本ハ荷田在滿ハ校正スル所ノモノナリ凡例ニ云ク凡ソ儀式ノ撰弘仁貞觀延喜ハ三有テ此ハ書舊題特

ニ儀式ノ二字ヲ以テス諸本皆然リ是ヲ以テ人或ハ其  
 ノ何ノ世ノ儀式タルコトヲ審ニセズ往年下田師古書  
 ヲ平安ニ致シテ之ヲ臣ガ父春滿ニ問フ春滿ガ家ニ律  
 令格式古目錄一卷ノ存セルアリ其ノ書最信ズベシ卷  
 中ニ三儀式ノ篇次ヲ載セテ具ナリ春滿乃之ヲ比校シ  
 テ其ノ貞觀儀式タルヲ知リ以テ師古ニ示ス師古之ヲ  
 然リトス淺井奉政ガ教ヲ奉ジテ夏ニ謄寫スルノ日始  
 テ貞觀ノ二字ヲ加ヘテ以テ其ノ標題ヲ改ム今之ニ從  
 フ臣在滿按ズルニ此ノ書貞觀ノ撰タル所以ハ卷ヲ開  
 ケバ則灼然トシテ知ルベシ必シモ古目錄ヲ比校スル

ヲ須ヒズ何シトナレハ卷第一ニ大原野祭春日祭儀並  
 ニ弘仁ノ御宇未制セザルノ式ナリ國史證スベシ豈弘  
 仁ノ撰ト謂ハンヤ卷第二ニ散位寮鼓吹司ノ名アリ皆  
 延喜以前已ニ停メタルノ官ナリ格式据ルベシ實ニ延  
 喜ノ作ニ非ルナリ今特ニ其ノ初ニ在ルモノ一二ヲ舉  
 ゲタリ自餘枚擧スベカラズ就中最モ著明ナルモノハ  
 山陵ノ幣ヲ奉ル儀文徳ノ陵ヲ以テ限トナス貞觀ノ撰  
 ニ非ズシテ何ゾ云ヤトアリ延享三年自序アリ  
 貞觀格式目一卷 刊本  
 貞觀格式中僧官ノ部ナリ正保二年刊本

延喜式五十卷 刊本

五十冊

藤原時平等勅ヲ奉ジテ撰ス此ノ書朝廷年中ノ儀式百官臨時ノ作法其ノ他諸國ノ恒例等ヲ詳ニ録スルモノニシテ首ノ十卷ハ神祇官ナリ初メ延喜帝左大臣藤原時平ニ命ジテ此ノ書ヲ編輯セシメシニ其ノ業未ダ終ズシテ世ニ即クヲ以テ其ノ弟忠平等命ヲ受テ諸儒ト俱ニ其ノ緒ヲ續ギ十餘年ヲ經テ編輯功成ルト忠平等ノ序ニ見エタリ今ノ刊行本ハ慶安元年林道春ノ跋ニ曰ク中原萃菴校正ノ本五十卷ノ中第十三卷闕ケタルヲ以テ尾張徳川氏ノ本ニ据リテ刻スルモノナリト卷

首ノ上表ヲ載ス正保四年清原賢忠ノ跋アリ明曆三年刊本○伊藤長胤ノ制度通ニ曰ク本朝法令ノ書專唐ノ刑書ノ目ニヨリテ律令格式ノ四科アリ其ノ別チ唐ノ制ト同シ律令格式ト同キヤウナルコトヲ四ツ立ラレタルワケハ令ト云ハ天下ハ一通ノ掟ニテ萬事ノ上ニ就キテ此ノ如クセヨ是ノ如クスルコト勿レト號令ヲ定メ置キタルモノナリ律ト云ハ天下ノ人罪アルトキハ此ノ如キハ流罪ニ處シ此ノ如キハ徒罪ニスルトイフノ差ヲ著シタルモノナリ杜預律ノ序ニ曰ク律以正罪名令以存事制杜氏通典ニ云ク違令有罪則入律也ト



是ナリ格ト云ハ代々天子ノ命令或ハ律令ト少シカハ  
 リタルコトモアリ又律令ヲ丁寧ニセラルコトモア  
 リテ臨時ノ御觸ナリ大明律ノ内ニ條例トアルハ類ナ  
 リ本朝ノ三代格等ノ體ヲ見ルニ中國ノ格モ其ノ通り  
 ナルベシ式ハ百官ノ官府ニテ行ス次第作法官ニヨリ  
 テ類シタルモノナリ今ノ延喜式ノ體卽是ナリトアリ  
 延喜式五十卷考異七卷附録三卷 刊本 六十冊  
 此ノ本ハ松平出羽守齊恒ノ校刻スル所ノモノナリ文  
 政十一年男齊貴ノ序アリ  
 延喜式工事解三卷 刊本 三冊

春田永年撰ス延喜式卷四十九工事兵庫寮ノ部ノ注釋  
 ナリ文化三年刊本男元長ノ跋アリ永年字ハ静甫一字  
 甲壽平山ト號ス幕府ノ函人ナリ  
 延喜式工事通解一卷 刊本 一冊  
 春田永年撰ス延喜式工事ノ注釋ナリ凡例ニ曰ク製作  
 ノ巧拙精粗工趣ノ得失雅俗ハ筆端ノ能ク述ブル所ニ  
 非ズ故ニ此ノ書唯工材物料ノ所用ヲ詳ニシテ器械ノ  
 古制ヲ審察スルコトヲ要トス  
 儀式十卷 刊本 五冊  
 撰人ノ名氏ヲ著サズ桃華葉葉ニ曰ク式五十卷延喜百

官式ナリ此ノ外儀式十卷云々即此ノ書ノ事ト見エタ  
リ此ノ本ハ藤原以文ノ校正スルモノニシテ天保十年  
刊本

内裏式三卷 刊本

藤原冬嗣等勅ヲ奉シテ撰ス禁中ノ儀式ヲ記シタル書

ナリ首ニ奏進ノ序アリ弘仁年間ハ編輯ナリ

新儀式殘缺一卷 寫本

一冊

此ノ本ハ第四卷臨時上ノ殘缺ナリ

弘安格一卷 寫本

一冊

此ノ書百官略書札禮事院中禮節三類ニ分テリ卷中ニ

弘安八年十二月日トアリ奥書ナシ

官印譜一卷

寫本

一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ古代ノ印譜ナリ凡ソ四十六種模

本ナリ其ノ官印ト稱スルモノハ天皇玉璽太政官印等

ナレバナリ

歷代外印鑄造考一卷

寫本

一冊

藤井貞幹撰ス古代ノ銅印譜ニシテ摸本ナリ每印貞幹

ガ考語ヲ附ス天皇御璽ヲ内印ト云ヒ太政官印其ノ他

外印トイフナリ貞幹字ハ子冬叔藏ト稱シ無佛齋ト

號ス京師人ナリ博學洽聞ニシテ好事ノ名アリ

制度通十三卷 寫本

十三冊

伊藤長胤撰ス此ノ書ハ和漢制度ノ古今沿革ヲ考證セ  
 シモノナリ自序ニ曰ク三代以來宋明ニ至ルマデ典章  
 文物之ニ參スルニ本朝ノ制ヲ以テシ書ヲ讀ミ古ヲ考  
 證スル者ヲシテ其ノ由ル所ヲ知ラシムトアリ凡ソ六十  
 二門享保九年稿成ル長胤字ハ源藏東涯ト號ス京師ノ  
 人仁齋ノ男ナリ父ノ業ヲ受ケ元文元年歿ス年六十七  
 私ニ謚シテ紹述ト云フ

革命勘文六卷 寫本

六冊

林道春ノ日本書籍考ニ曰ク年號改元ノ事ヲ考ヘタル

勘文ナリ三善家ノ書ナリ此ノ書首ニ延喜元年辛酉此  
 一歲革命ノ運ニ當ルヲ以テ文章博士三善清行ノ革命  
 勘文并ニ請改元應<sup>ス</sup>天道之狀ヲ載ス蓋革命ノ事此ノ時  
 始マ<sup>ル</sup>ト云ヘリ爾來數百年辛酉ノ歲ニハ必ズ改元  
 アリ甲子ヲ革命ト爲スニ因リテ亦改元スルコトナリ  
 是ハ易緯ニ辛酉爲革命甲子爲革命ト云フニ出デ、本  
 陰陽家ノ説ナリ明治維新ノ政百度盡張リ此等識緯ノ  
 説ヲ廢レ近ク明清ノ例ヲ取り一代一號ノ制ヲ定メラ  
 ル洵ニ熙朝ノ盛事ナリ

國解年號勘文奏聞次第一卷 寫本

一冊

年號勘文ヲ奏進スルトキノ儀式ヲ記セリ奥書ナシ  
諸道勘文二卷 寫本 二冊

此ノ本殘缺ナリ今存スルモノ神事第十五八幡宮ノ五  
第四十五彗星ノ上共ニ二卷ナリ

元秘抄四卷

寫本

撰人ノ名氏ヲ著サズ卷一ノ奥書ニ曰ク此ノ抄長成卿

編集云々諸家用キラレ抄ナリ但一亂ニ依リテ餘卷

紛失シ畢ヌ只今所持四卷ニ分ツ云々文明十五年五月

日翰林小士管和長トアリ此ノ書ハ和漢年號ノ事改元

勘文ノ例ヲ詳ニ記セルモノナリ

元秘別錄六卷

寫本

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ書モ改元年號ノ勘文ヲ集メ

タルモノナリ序跋ナシ

迎陽記三卷

寫本

編輯者ノ名氏ヲ著サズ此ノ書モ年號改元ノ勘文ヲ集

メタルモノナリ後白河天皇ノ久壽ノ改元ニ始リ後圓

融天皇ノ康曆ニ終ル奥書ニ曰ク此ノ迎陽記ハ秀長卿

自筆ノ卷ヲ以テ摸寫セレメ一校ヲ加ヘ畢ヌ寛永七年

翰林學士管原朝臣判トアリ

本朝改元考一卷

刊本

皇天曆改元考一冊

山崎嘉撰ス文武天皇大寶元年ヨリ延寶元年ニ至ルマ  
 改元ノ月日ヲ注ス卷末ニ古來年號ノ事及改元革命  
 等ノ考ヲ附ス嘉字ハ敬義閣齋ト號ス又垂加翁シテマノオキキ通稱清  
 兵衛後嘉右衛門ト改ム平安山人天和二年歿ス年六十  
 六  
 改元物語一卷 寫本  
 林恕撰ス此ノ書ハ寛文十三年九月延寶ト改元ノ時ノ  
 記事ナリ  
 正徳年號辨一卷 寫本  
 新井君美撰ス中御門天皇正徳二年徳川家宣薨ス林信

篤建議シテ正徳ノ年號字面不祥ナルニ因リテ改元ア  
 ル可シト云フ閣老間部詮房之ヲ君美ニ謀ル君美乃此  
 ノ書ヲ進ム而シテ其ノ議終ニ熄ム此ノ事卷後ニ記セ  
 享保改元勘文一卷 寫本 一冊  
 正徳六年六月享保ト改元ノ時ノ勘文ナリ  
 年號勘文一卷 寫本 一冊  
 寛保四年二月延享ト改元ノ時ノ勘文ナリ  
 改元次第一卷 寫本 一冊  
 安永十年四月天明ト改元ノ時ノ勘文并ニ詔書ヲ録ス

條事定一卷 寫本

此ノ書條事定ノ式ヲ記ス

條事定記一卷 寫本

此ノ書寛喜元年ヨリ長享三年ニ至ル條事定ノ文書ナ

リ 寫本

改元條事定一卷 寫本

此ノ書改元ノ勘文并ニ其ノ式ヲ記ス延享元年改元ノ

時ノ記録ナリ

類聚符宣抄八卷 刊本

編輯者ノ名氏ヲ著サズ太政官符及口宣案ヲ類聚セシ

一冊

一冊

一冊

八冊

元禄四年小槻宿禰<sup>ノ</sup>奥書アリ文政三年塙保己一奥書

ニ曰ク右符宣抄八卷京師ニ於テ之ヲ得タリ闕卷アリ

ト雖ヘドモ尤珍重スベキモノナリ仍テ校合ノ次聊傍

注ヲ加ヘ了ヌトアリ

服忌令一卷 寫本

奥書ニ外宮一禰宜從三位度會神主常和印内宮一禰宜

正三位荒木田神主氏富印トアリ年月ヲ記サズ

新律綱領六卷 刊本

明治三年十二月新ニ定タル所ノ律書ナリ卷首上諭ニ

新律綱領六卷 刊本

曰ク朕刑部ニ勅シテ律書ヲ改撰セシム乃綱領六卷ヲ  
奏進ス朕在廷ノ諸臣ト議シ以テ頒布ヲ允ス内外有司  
其レ之ヲ遵守セヨトアリ  
改定律例三卷 刊本

明治六年五月夏ニ改定スル所ノ律例ニシテ新律綱領  
ト並ビ行ハル卷首上諭ニ曰ク朕曩ニ司法ニ勅レ國家  
成憲ニ原キ各國ノ定律ヲ酌ミ改定律例ヲ修撰セシ  
ム今ヤ編纂成ルヲ告ク朕乃內閣諸臣ト辨論裁定シテ  
之ヲ頒行セシム爾臣僚其レ之ヲ遵守セヨトアリ  
監獄則一卷 刊本

此ノ書司法省ニテ編纂スル所ナリ綱領ニ曰ク獄ニ七  
大綱アリ曰ク興造曰ク繫獄曰ク懲役曰ク疾病曰ク處  
刑曰ク官員曰ク雜則其ノ詳ナルコトハ條目ニ悉ス云  
云トアリ

監獄則圖式一卷 刊本  
監獄建築及器械等ノ圖式ナリ  
集議院規則一卷 刊本

明治二年九月新ニ定ムル所ノ規則ナリ第一條ニ曰ク  
集議院ハ廣ク衆議ヲ諮詢シ國家治安ノ大基ヲ建タマ  
フ御心ニ體シ奉リ億兆心力ヲ盡スル場所ナリ故ニ議

事ハ詔書ヲ遵奉シ太政官ト心志ヲ合シ專政治ノ根本  
ヲ旨トシ普ク時務ニ涉リ皇國內氣脉睽離セザルヲ要  
ス云々トアリ首ニ詔書ヲ掲グ

司法職務定制一卷

刊本

一冊

明治五年七月司法卿江藤新平定ムル所ノ職制ナリ第  
一條ニ曰ク省中官ヲ分チ事務ヲ辨理ス官ニ職制アリ  
務ニ章程アリ課目アリ以テ統紀ヲ明ニシ諸官ヲシテ  
遵守スルコト有シム云々トアリ  
諸罰則一覽表一卷 刊本  
司法省ニテ定ムル所ノ鐵道租稅地券國立銀行其他

諸商業ノ罰則表ナリ

守衛勤務概則一卷

刊本

一冊

高橋維則編ス自序ニ曰ク曩ニ教師越斯滿氏ヨリ守衛  
勤務ノ講授ヲ受ケ筆記シテ之ヲ反覆考究スルニ事簡  
略ヲ主トスルヲ以テ或ハ能ク了知シ難キ箇條ナシト  
セズ是ニ於テ以爲ラク更ニ原書ニ據テ増補スル所有  
ラバ稍了知シ易キニ至ラムト因テ地方勤務書及歩兵  
内務書中ノ要領ヲ摘譯シ其ノ筆記スル所ト合綴シテ  
以テ此ノ書ヲ編ス蓋シ此ノ編素ヨリ完全ノ者ト云フ  
可ラズト雖ヘドモ新參ノ者亦以テ梗略ヲ識ルニ足ラ



ム云々トアリ明治七年陸軍省刊本  
條約類纂一卷 刊本

一冊

此ノ書嘉永七年ヨリ明治七年ニ至ルマデ各國ノ條約  
書ヲ類聚セシモノナリ序ニ曰ク締盟各國條約書及約  
書等嘗テ梓行ヲ經ル者アリト雖ヘドモ縦文ノミニシ  
テ横文ナク横文備テ縦文ヲ缺キ未完全ナルニ至ラズ  
故ニ事務調理ノ際或ハ隔靴ノ恨ナキコト能ハズ因テ  
今兩文ヲ駢出シ以テ經查ノ便ニ供フトアリ明治七年  
外務省印行

職官表三卷 刊本

三冊

中村弘毅等編ス凡例ニ曰ク維新以降職官ノ制一ナラ  
ズシテ諸公文ニ散見シ未其ノ沿革ヲ閱スルニ便ナル  
者アラズ今此ノ書慶應三年丁卯十二月ヨリ今日ニ至  
ル公文ヨリ拔抄シ沿革ヲ綜シテ以テ表列ス蓋草創ノ  
際公文或ハ遺漏アリテ寮司府縣以廢置往々首尾相貫  
カザルモノアリ向キニ諸省ニ推問シ略訂正ヲ得ト雖  
ヘドモ猶其ノ詳ナル得テ徵シ難シ徒ニ時日ヲ荏苒セ  
ルコトヲ恐ル因テ姑ク公文ニ在ル所ノ者ヲ纂ス云々  
トアリ明治六年太政官刊本

議事章程一卷 寫本

一冊

大藏省ニテ定ムル所ノ地方官議事ノ章程ナリ明治六年刊本

日本米國郵便交換條約二卷 刊本

明治七年定ムル所ノ條約ナリ外務省刊本

民法假法則一卷 刊本

司法省ニテ定ムル所ノ民法假法則ナリ

市中制法一卷 刊本

大坂府ノ市中條令ナリ明治五年刊本

陸軍省條例一卷 刊本

明治六年三月太政官ニテ定ムル所ノ陸軍省職制并ニ

條例ナリ同年刊本

改訂鎮臺條例一卷 刊本

陸軍省ニテ定ムル所ノ鎮臺條例ナリ

六官鎮臺色分圖 刊本

陸軍省刊本

陸軍武官服制表並圖一卷 刊本

全上

略帽制一卷 刊本

全上

憲法類編初編二十八卷二編十六卷 刊本

明治六年司法省明法寮ニテ編輯スル所ナリ江藤新平  
 等ノ序ニ曰ク往昔大寶養老ノ二朝修定スル所ノ法典  
 廢弛スル既ニ久シ中葉ヨリ而降豪族政ヲ爲シ家其ノ  
 俗ヲ殊ニシ國其ノ風ヲ異ニシ概皆慣習ヲ以テ法ト爲  
 ス之ヲ無法ト謂テ可ナランカ今ヤ王室中興宇内ヲ混  
 一シ嚮ノ豪族ナルモノ悉ク郡縣ニ皈シ政令一途ニ出  
 六〇是ニ於テ凡百ノ法度内ハ則大寶養老ノ舊ニ溯リ外  
 ハ則西洋諸國ノ粹ヲ采リ頗裁定スル所アリ抑西洋諸  
 國法ヲ設ルノ體其ノ別六アリ曰ク國曰ク刑曰ク治罪  
 曰ク民曰ク商曰ク訴訟而シテ其ノ皈ヲ要スルニ國民

ノ二者ニ出デズ今朝廷裁定スル所ノモノ端緒多シト  
 雖ヘドモ亦此ノ二者ヨリ外ナル者莫シ然レドモ公文  
 ニ散在シ未稟彙シテ一部ノ書トナスモノアラズ因テ  
 國民ノ二綱ヲ立テ門類ヲ分テ之ヲ匯集シ慶應三年十  
 月ヨリ明治五年十二月ニ迄ル名テ憲法類編ト曰ヒ之  
 ヲ明法寮ニ備ヘテ以テ法官ノ查考ニ便ニス云々トア  
 リ同年刊本  
 法例彙纂一卷 刊本 一冊  
 明治八年太政官ニテ編輯スル所ノ法例彙纂中ノ訴訟  
 法ナリ明治元年ヨリ八年ニ至ル

書目解題 卷四 七 十八

徵兵令一卷

刊本

一冊

明治五年十一月上諭ニ曰ク朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全  
 國ノ丁壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ  
 兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ皈シ兵農始テ分レ  
 遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ  
 一大變革ナリ此ノ際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜  
 制セザルベカラズ今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國  
 ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立  
 テント欲ス汝百官有司厚ク朕ガ意ヲ體シ普ク之ヲ全  
 國ニ告諭セヨトアリ序ニ曰ク兵ヲ徵スルノ方法ハ國

家ノ大典忽ニスベカラザル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行  
 日ノ難キ固ヨリ言ヲ俟タズ其ノ法タル古今其ノ制ヲ  
 異ニシ各國其ノ趣ヲ同ウセズト雖ヘドモ要スルニ一  
 ニ民兵ニ因ラザル者ナシ所謂民兵ニ三種アリ曰ク壯  
 兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナルモノハ全國ノ丁壯ヲシテ  
 兵役ヲ帶ビシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其ノ内沿海居住  
 民舟楫波濤ニ慣レタル者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而  
 シテ壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出ヅル者ニシテ服役數年ヲ  
 帶ビ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其ノ優益ヲ  
 得ル者ナリ然レドモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生ズル無

キ能ハズ是ノ故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ  
 建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役  
 八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦  
 兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久キ恐クハ人  
 民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シ  
 ト謂フベカラズ是ニ於テ斟酌シテ其ノ宜ヲ採リ折衷  
 シテ其ノ要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ  
 徵兵令ト云フナリ

日本獨逸條約書一卷 刊本 一冊

明治二年九月定ムル所ノ條約ナリ外務省刊本

大日本西班牙條約書一卷 刊本 一冊

明治三年二月定ムル所ノ條約ナリ外務省刊本

賞牌從軍牌圖式一卷 刊本 一冊

明治八年二月上諭ニ曰ク朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立  
 テ績ヲ顯ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユベシ仍テ  
 勲等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アル  
 ヲ知ラシメントス汝有司其斯ノ旨ヲ體セヨトアリ

大禮服制表并圖一卷 刊本 一冊

勅奏判官并ニ非役有位ノ者ノ大禮服ノ圖式ナリ

學制一卷 刊本 一冊

明治五年七月文部省ニテ定ムル所ノ學校ノ制度ナリ  
同年刊本

學制解譯一卷 刊本 一冊

小野正巳撰ス前ノ學制ヲ頒布スルニ就テ太政官ハ布  
告アリ其ノ旨趣ヲ童蒙婦女ニ知ラシメンガ爲ニ注解

シタルモノナリ渡邊昇ノ序アリ大坂府刊本 一冊

學寮日典一卷 刊本 一冊

陸軍省兵學寮ノ規則ナリ

郡中制法一卷 刊本 一冊

大明治五年三月大阪府刊本

訴訟法假規則一卷 刊本 一冊

司法省ニテ定ムル所ノ假規則ナリ

下士官及兵卒心得書一卷 刊本 一冊

明治六年二月陸軍兵學寮ノ編輯ナリ

斷獄則例一卷 刊本 一冊

卷首ニ云ク從來斷獄庭ノ規則一定ナラズ因テ今般斷

獄則例ヲ各裁判所ヘ頒行ス其ノ例内ニ開載セザル瑣

屑ノ事項ハ時ニ臨ンデ廢置スルモ亦妨グズ明治六年

一月司法卿江藤新平トアリ

大學規則一卷 刊本 一冊

大學南校規則一卷 刊本

大學東校舍則一卷 刊本

中小學規則一卷 刊本

以上四種明治三年大學ニテ定ムル所ノ規則ナリ

改正新貨條例一卷 刊本

明治四年五月太政官布告ニ曰ク皇國往古ヨリ他邦貿

易ノ事少ク貨幣ノ制度未精密ナラズ其ノ品類各種ニ

シテ其ノ價位モ亦一定セズ今其ノ概略ヲ舉ゲムニハ

慶長金アリ享保金アリ文字金アリ大小判金アリ一分

金アリ貳分金アリ貳朱金アリ一分銀アリ一朱銀アリ

當百錢アリ大小數種ノ銅錢アリ其ノ他一時通用ノ貨

幣ハ枚舉ニ遑アラズ甚キハ一國一郡限リノ貨幣アリ

テ今ニ至マデ僅ニ其ノ一部ニ通用シ他方ニ流通セザ

レモノアリカク其ノ品類區々ニシテ方圓大小其ノ價

ヲ異ニシ混合雜駁其ノ質ヲ同クセズ抑貨幣ノ眼目タ

ル量目ト性合トニ至リテハ殆<sub>レ</sub>辨知スベカラズ新舊互

ニ雜用シ品位自<sub>レ</sub>低シ其ノ間或ハ贗造ノ弊アリテ竟ニ

今日ノ甚ニ馴致セリ偶<sub>レ</sub>良性ノ貨幣ハ徒ニ富家庫中ノ

寶物トナリ或ハ外國へ輸出セシモ亦少カラズ遂ニ諸

品換用ノ能力ヲ失ヒ日用便利ノ道ヲ塞ギ流通ノ公益

殆絶ニトスルニ至ル實ニ是天下一般ノ窮厄ニシテ今  
 其ノ緣由ヲ尋繹スルニ全ク一定ノ價位ナクシテ善惡  
 良否ヲ雜用スルノ舊弊ヨリ生ズル事ナリ方今貿易ノ  
 道彌盛ナル時ニ當リテ舊弊ヲ改メ精良ノ新製ヲ設ケ  
 シンバ何ヲ以テ流通ノ道ヲ開キ富國ノ基ヲ立ンヤ是  
 政府ノ責任ニシテ然モ燃眉ノ急務ナリ故ニ去ル明治  
 元戊辰ノ年ヨリ早ク其ノ功ヲ起シ莫大ノ經費ヲ厭ハ  
 ズ大坂ニ於テ新ニ造幣寮ヲ建置シ壯大ナル器械ヲ備  
 ヘ廣ク宇内各國貨幣ノ真理ヲ察知シ金銀ノ性質量目  
 ヲリ割合ノ差等鑄造ノ方法ニ至ルマデ詳ニ普通ノ制

ヲ比較商量シ以テ精密ノ通用貨幣ヲ鑄造シ在來ノ貨  
 幣ニ加ヘテ一般ノ流通ヲ資ントスルノ都合ヲ謀リ既  
 ニ開寮ノ儀典ヲ完了セリサレドモ前ニ言ル如ク區々  
 各種ノ貨幣多クレバ現場諸品ノ價直ヲ錯亂シ萬民ノ  
 迷惑ナルコトナレバ漸々新舊ヲ交換シテ在來ノ通寶  
 ハ悉ク改鑄シ都テ品類ヲ一定セシメントノ御趣意ナ  
 リ仍テ今爰ニ其ノ次第ヲ揭示シ并セテ新貨幣ノ真形  
 ヲ摹シ其ノ量目品位表ヲ添ヘ且地金引換ノ規則等詳  
 細ニ附録シ普ク國內ニ頒布告諭スルモノナリトアリ  
 大藏省刊本



貨幣條例備考一卷 刊本

一冊

序ニ曰ク大政維新ノ際官風ニ造幣寮ヲ建置シ辛未五月新貨條例ヲ頒布セシヨリ斯ニ從事スルモノ殆五年遂ニ今日ニ至リ新貨ノ流通天下ニ遍ク衆庶ノ耳目ヲ一新セシムルニ及ベリ其間造幣ノ規則例目等刪補スルモノ亦尠シトセズ因テ新貨條例ヲ改正シテ貨幣條例ヲ作レリ刻已ニ成リ再之ヲ世ニ公ニス然リ而シテ辛未已降造幣ニ關スル諸規則及公布ノ類考證ニ備フ可キモノヲ摘抄シ并テ新舊貨幣鑄造ノ總計及各國貨幣ノ品位重量等我カ貨幣ニ比較セシ價格概表トモ今

之ヲ蒐録シ名テ貨幣條例備考ト云フ以テ官民ニ便ス

日トアリ大坂造幣寮刊本

改正陸軍服制圖例一卷 刊本

改正陸軍服制圖一卷 刊本

陸軍省刊本

海軍武官服制一卷 刊本

海軍下士以下服制一卷 刊本

海兵隊服制二卷 刊本

海軍文官服制一卷 刊本

明治六年改定スル所ノ服制并圖式ナリ海軍省刊本

日本清國條約書一卷 刊本  
 明治五年十一月十九日上諭ニ曰ク前ニ大藏卿伊達宗城カ清國ニ適テ議立セシ兩國修好條規通商章程等ニ定メタル條々ヲ閱シテ既ニ永遠執行シ愈友誼ヲ敦クスベキ旨允准シタルハ外務大臣副島種臣ヲシテ書判ヲ加ヘシテ取換ハセシ上右條約内必行スベキノ諸事俾テ全國府縣ノ大官等へ布告シテ總テ一般ニ相照レ辦理セシムル者ナリトアリ外務省刊本 一冊  
 日本澳地利條約書一卷 刊本  
 明治二年定ムル所ノ條約ナリ外務省刊本 一冊

罪案凡例并罪案書式二卷 刊本  
 明治五年江藤新平序ニ曰ク罪囚前ニアリ法ヲ按テ罪ヲ定ムルニ其ノ以テ議擬論定スル所ノ者一ノ供狀ニ據ル全圖然レバ則一字ノ上一言ノ下ニ以テ發生殺ノ分定マレ供狀ノ係正所豈容易ナランヤ從來各府縣開具スル所一定ノ體裁ナク往々其要領ヲ得ザル者アリ故ニ今供狀ヲ以テ罪案トナシ一字一言ノ際モ勉テ死ヲ去テ簡ニ就キ蕪ヲ鋤シテ潔ニ從ヒ始ニ其ノ情石由ヲ起ル所ヲ見ハ其ノ中ニハ其ノ意存アル所ヲ明ニシ終ニハ其ノ事ノ既成レル所ヲ詳ニシ而シテ之ヲ律ニ

照シ填スルニ字眼ヲ以テシ犯シ首從罪ハ公私殺不謀  
 故盜人強竊等判然トシテ復疑ヲ容ル、所ナカラシメ  
 ンコトヲ欲ス茲ニ其ノ凡例書式ヲ示ス左ノ如シ司法  
 省刊本 大 凡 例 書 式 一 卷 刊 本  
 東京鎮臺條例一卷 刊本  
 條例第二ニ曰ク五管並鎮臺ハ同一ノ權ヲ受ケト雖ヘ  
 且モ全國地勢ニ關涉スルヲ以テ各大小厚薄並別ナキ  
 能ハズ東京鎮臺ハ直ニ輦轂下ニ在テ其責任極大重シ  
 下雖ヘ且モ近ク本省ニ隸スルヲ以テ其ノ便宜ヲ制シ  
 罪職守分界ヲ示ス左ノ條々ノ如シトアリ陸軍省刊本

讀法一卷 刊本

一冊

兵隊ニ告示スル所ノ軍令ナリ陸軍省刊本

懲罰令一卷 刊本

一冊

明治五年定ムル所ノ軍人軍屬ノ懲罰令ナリ陸軍省刊  
 本

戸山學校行軍演習日記一卷 刊本

一冊

凡例ニ曰ク凡ノ此ノ行軍ハ演習ト試験ノ二ツヲ兼ヌ  
 ル者ニシテ此ノ學校ニ於テ每歲之ヲ施行シ演習ノ式  
 目教師ノ論說ヨリ以テ實驗發明スル所ノ利害得失ヲ  
 詳記シ廣ク全國軍隊ニ公告スルヲ以テ要旨トス云々

トアリ明治七年刊本  
邏卒勤方問答一卷 刊本

大築拙藏譯ノ序跋ナシ

大内侍御所御覽日誌一卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌四卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌五卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌六卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌七卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌八卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌九卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十卷 刊本

大内侍御所御覽日誌十一卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十二卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十三卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十四卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十五卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十六卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十七卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十八卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌十九卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十卷 刊本

大内侍御所御覽日誌二十一卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十二卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十三卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十四卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十五卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十六卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十七卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十八卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌二十九卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十卷 刊本

大内侍御所御覽日誌三十一卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十二卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十三卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十四卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十五卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十六卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十七卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十八卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌三十九卷 刊本  
大内侍御所御覽日誌四十卷 刊本

公事

北山抄六卷 寫本

藤原公任撰ス此ノ書ハ一條天皇以後ノ儀式ヲ記セリ

桃華藥葉ニ曰ク西宮抄ハ古禮ナリ北山抄ハ一條院以

來久儀式ナリ江次第ハ延久以後ノ禮儀ナリ但誤ノ事

等アリ北山抄ハ證書タル由知足院殿ノ仰ナリ云々

西宮記二十卷 寫本

西源高明撰ス此ノ書禁裏年中恒例并ニ臨事ノ作法ヲ記

セリ高明西宮左大臣ト稱スルヲ以テ西宮記ト名ケシ

西源高明撰ス此ノ書禁裏年中恒例并ニ臨事ノ作法ヲ記

西宮抄無卷數

寫本

ナリ高田西宮本大田イ辭ハルマ西宮抄無卷數

源高明撰ス此ノ書西宮記ト異ナリト雖ヘドモ亦恒例

臨事ノ公事儀式ヲ記スルモノニシテ多ク古禮ヲ述タ

リ仁和寺書目ニ西宮抄四卷八卷十卷トアリ昔ヨリ卷

數定ラザルニ似タリハ其ノ入ルル所ハ

江家次第十九卷

刊本

江家次第十九卷ハ古野ノ山十九冊

大江匡房撰ス江次第桃華御談義ニ曰ク江次第ハ後ニ

條關白ノ命ニ依リテ大江匡房卿之ヲ撰ス故ニ江次第

トイヌナリ初ハ一書トナサズ公事ノ期ニ臨ミテ漸々

之ヲ撰シ後入集ノテ二十卷トナシ臨時恒例ノ部類ヲ

立ルモノナリ云々トアリ此ノ書年中恒例臨時ノ公事

大小ノ儀式ヲ詳ニ記セリ承應二年林鷗ノ跋ニ曰ク江

氏真本原二十一卷アリテ其ノ第十六第二十一ノ卷今

皆脱シテ見エズ然ルニ今世ノ書本第十七卷内ノ數章

ヲ把リテ十六卷トナシテ其ノ編次ヲ足ヌ故ニ淺智ノ

徒率多ク考ヘズ二十卷備レリト云フ余叨リニ固陋ヲ

忘ル粗校訂ヲナシテ其ノ舊章ニ復シ以テ十九卷トナ

ス云々トアリ

江次第鈔六卷

寫本

江次第鈔六卷ハ

撰人ノ名氏詳ナラズ江次第ノ鈔說ナリ奥書ニ異本ニ  
云ク愚勘ヲ以テ抄出セシメ畢又定テ僻事等アルカ後  
成恩寺殿御判トアリ  
江次第桃花御談義一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ書モ江次第事物ノ注釋ナリ  
奥書ニ云ク此一巻ハ或ヨリ恩借シテ書寫セシメ畢  
原原本ハ東園家ノ本書ナリ秘スベシ正徳二年正月左  
近衛中將藤原朝臣トアリ  
江家次第考五卷 寫本 五冊  
撰人ノ名氏ヲ著サズ江次第ノ考說ナリ奥書ナシ

禁秘鈔三卷

刊本

三冊

順徳天皇御撰此ノ書一ニ禁秘御抄ト名ク禁中ノ故實  
ヲ詳ニ記シ給ヒシモノナリ原本ハ假字ニテ上下二卷  
ナリシヲ後ニ真字ニ改メ點ヲ加ヘテ三卷ニ分ツト云  
ヘリ花園天皇ノ正和五年禁裡ノ御本ヲ申シ出シテ密  
々ニ之ヲ書スト奥書ニ見エタリ又文明九年特進通秀  
ノ奥書アリ藤井貞幹ノ好古小録ニ曰ク禁秘御抄ハ即  
建曆御記ニシテ真名假名相交リタリ近古悉ク真名ニ  
書更テ名クルニ禁秘抄ヲ以テシ建曆御記ノ舊文亡ビ  
タリトアリ慶安五年刊本

禁秘抄階梯三卷 刊本

三冊

藤原公麗撰ス禁秘抄ノ注釋ニシテ考證尤詳悉トス自  
跋アリ此ノ書ヲ注スルノ意見ヲ述ベタリ安永五年二  
月九日太宰權帥藤原公麗トアリ

公事根源一卷 刊本

二冊

藤原兼良撰ス此ノ書正月ヨリ十二月ニ至ル禁中ノ公  
事ヲ次第シテ其ノ起原ヲ假字ニテ記セリ奥書ニ云ク  
應永二十九年正月十二日之ヲ書シ畢又偏ニ嬰兒ノ爲  
ニス外見憚アリ又一本ノ奥書ニ云ク右根源抄ハ柳營  
ノ御所望ニ依リ後成恩寺關白 兼良公時 一紙ノ書ヲ披

兼良公時

年十九

見セズ之ヲ書キ進ゼラルト此ノ柳營トイフハ足利義

量ヲ指スナリ年山紀聞ニ此ノ書ヲ後成恩寺殿ノ撰ト

ノ思ヒ侍リツルニ其ヨリ先キ年中行事歌合ノ奥書

ニ後普光園院良基公ノ作ナリソレヲ兼良公抄出シテ

題號ヲ改メ將軍家ヘ進ラセラレシナルベシト云ヘリ

公事根源集釋三卷 刊本

三冊

松下見林編ス本文ニ傍訓ヲ加ヘ欄外ニ諸書ヲ引テ事  
物ハ名義ヲ注釋ス元祿七年自跋ニ曰ク公事根源抄ハ  
年中公事ノ根源ヲ記スル所以ナリ其ノ大意國史諸書  
ニ取テ人ヲシテ公事ノ大要ヲ知ラシム是ヨリ先キ二

三子余ニ從テ講説ヲ求ム然レドモ世本傳寫ノ誤多シ  
余考ル所アリテ文字ヲ是正シ亦諸書ヲ引据シテ以テ  
其ノ義ヲ明ニス名ケテ集釋ト曰フ云々トアリ  
禮儀類典五百十卷序目二卷圖繪三卷寫本 五百十五冊  
徳川光圀編ス古今諸家記録中ヨリ朝廷ノ禮法儀式ニ  
關涉セル事ヲ類聚シタルモノナリ寶永七年男網條ノ  
序ニ曰ク我が先人夙ニ往史ヲ披キ古今君臣ノ事蹟ヲ  
求ムルヲ思ヒ典故諸籍ヲ讀ムニ逮テハ則以テ夫ノ禮  
教ノ用其ノ切ナルコト斯ノ如キヲ睹ルコトアリ私ニ  
以テ諸公卿大夫士其ノ事ヲ諳練シ能ク源氏ノ記藤

氏ノ抄江氏ノ次第ニ續ギテ以テ見聞ヲ叙述スル者前  
後數十百家載スル所造因隆殺瑣儀末節ヨリ旁綸命廳  
令書疏議論ニ及ブマデ至テ周備トナス參ヘテ之ヲ取  
ル皆以テ例徴ヲ資クルニ足ル而シテ代殊ニ人異ナレ  
バ彼ハ詳ニ是ハ略シテ未衰メテ一大盛典トナスモノ  
有ルヲ聞ズ憾ムベキナリト乃多方請借募致シ獲ル所  
ニ就キテ以テ編ヲ造セリ書ハ則原名ヲ標シ文ハ則舊  
簡ニ仍ル其ノ替ヲ芟リ其ノ冗ヲ汰シ引テ其ノ類ニ皈  
セシメ綜ルニ恒例臨事ヲ以テシ之ヲ總テ五百一十卷  
圖三卷ヲ附シ二十秋春ヲ易ヘテ成ル僭越ヲ是揣ラズ



ト雖ヘドモ編摩ノ稍カメタル往キニ嘗テ右大臣藤原  
 公規ニ憑テ奏進ス太上皇撰次旨ニ稱クヲ以テ特ニ秘  
 閣ノ書若干帙ヲ出シ勅メテ増輯セシム云々トアリ凡  
 例ニ曰ク凡テ此ノ書大體類聚國史ニ倣ヒ其ノ恒例ヲ  
 先ニシ臨時ヲ後ニスルモノハ西宮記江次第ニ倣ヘリ  
 引ク所ノ書ノ條ハ名題ヲ掲ゲ文ハ咸舊ニ仍ルナリ蓋  
 寧繁ニ過ダルモ略ニ失スル莫レトナリ又曰ク凡恒例  
 月ヲ以テ之ヲ分テ次第ニ載録シ正月ヨリ十二月ニ至  
 ル立テ十二部トナス臨時ニ至リテハ時月ノ限ルベキ  
 ニ非ズ故ニ十二支ヲ以テ之ヲ分ツ亦立テ十二部トナ

ス每卷首ニ引ク所ノ書名ヲ掲ゲテ年ヲ其下ニ注ス蓋  
 觀ルモノ、考求シ易キヲ欲シテナリトアリ  
 禮典拔萃四卷 寫本 四冊

此ノ書ハ禮儀類典卷帙浩濶ニシテ緡閱ニ難キヲ以テ  
 其ノ要語ヲ抄出シ修メテ四卷トナシ旁考語ヲ加ヘシ  
 モノナリト元文五年ノ序ニ見エタリ  
 貞觀年中行事一卷 寫本 一冊

元和元年無名氏ノ與書ニ曰ク右貞觀年中行事三代實  
 錄ニ參考スルニ全ク同ジ左府藤原實熙拾芥抄ニ云ク  
 三代實錄五十卷左大臣時平勅ヲ奉ジテ撰ス實ハ藏善

行ノ撰ナリ天安二年ヨリ仁和三年ニ至ル延喜元年八月二日ノ奏彼ノ如シ此ノ書ハ皇王ノ模範明哲ノ實録ナリ清原家藏本ヲ以テ之ヲ書寫スルモノナリトアリ  
禁裏政要一卷 寫本 一冊

此ノ書一ニ建武年中行事ト名ク又假名年中行事ト名ク後醍醐天皇御撰ナリト奥書ニ見エタリ卷末ニ正平七年冬入道准后ニ仰セテ之ヲ書寫セシメ訖又同八年正月十八日之ヲ校合ス參議左近衛中將藤原公冬候之ト記ス其ノ他寛正五年文明十三年同十七年ノ奥書アリ

勅製年中行事一卷

寫本

一冊

前同書ナリ即奥書ニ云、禁中當御所

建武年中行事略解五卷

寫本

二冊

谷村光義撰不享保十七年壺井義知ノ序ニ曰ク建武年中行事ハ後醍醐前帝ノ制作ニシテ北畠一位源准后入道後王ノ綸命ヲ奉ジテ修撰スル所ナリ官府ノ故事ヲ採リ諸曹ノ遺例ヲ撫ヒ用捨ヲ審察シ古今ヲ商量シテ書已ニ成ル實ニ公事政要ノ龜鑑ニ備フベキ書ナリ爰ニ石清水ノ社士谷村光義余ガ小席ニ從游スルコト年アリ其ノ間此ノ書ヲ得テ熟讀辨明シ舊章ノ説ニ原キ

テ初學童蒙ノ爲ニ自上頭ニ著シ且和字解シ難キモノ  
ハ旁ニ漢字ヲ加ヘ名クルニ略解ヲ以テス云々同年ノ  
自跋アリ

御障子本年中行事一卷 寫本 一冊

外記年中行事卷首ニ曰ク仁和元年五月二十五日太政

大臣 昭宣 年中行事障子ヲ獻スト今按ズルニ彼ノ年始

元年中行事障子ヲ立ラル、カ小野宮記ニ見ユトアリ

禁中恒例年中行事一卷 寫本 一冊

天明六年源保明ノ奥書ニ云ク禁中當時恒例公事ハ所

司代宇津宮侍從朝臣ノ所望ニ依リテ固陋ニ雖ヘドモ

粗見聞ノ趣ヲ以テ之ヲ舊記ニ考ヘ竊ニ其ノ大概ヲ注

シテ之ヲ呈ストアリ

外記年中行事一卷 寫本 一冊

中原師遠撰ス奥書ニ曰ク弘安八年六月二十三日相傳

ノ秘説ヲ以テ愚息木工助師緒ニ授ケ訖ストアリ又延

慶二年中原某ノ奥書アリ

師遠年中行事一卷 寫本 一冊

卷後ニ誌シテ云ク年中行事御障子ノ外多ク之ヲ加入

ス件ノ御障子ハ南軒廊下小板敷壁下ニアリト永曆元

年大法師良巖ノ奥書アリ此ノ書即外記年中行事ナリ

但諸家ノ校訂ヲ經クレバ此ノ本ヲ善トス

師光年中行事一卷

寫本

一冊

中原師光撰ス此ノ抄ハ近衛殿ノ仰ニ依リテ抄寫シテ之ヲ進ム天覽ニ備ヘラレンガ爲カ一本モ亦書寫シテ進ムル所ナリ尤モ秘スベシ禁方ニ比スベキノ師光ト奥書ニ見エタリ

師元年中行事一卷

寫本

一冊

中原師元撰ス奥書ニ曰ク此ノ年中行事師元朝臣抄出スル所ナリ裏書勅物等之ニ同ジ又曰ク師元保安二年正月二十三日權少外記ニ任シ同年十二月日大外記ニ

轉任シ安元元年五月卒ストアリ月詳ナリ

元亨四年年中行事一卷

寫本

一冊

賀茂在仲等撰ス卷末ニ元亨三年十一月一日ストアリテ撰人ノ官銜ヲ記ス奥書大シ

年中行事一卷

寫本

一冊

平明和二年高橋等庭ノ奥書ニ曰ク右年中行事一卷ハ賀茂社氏人保隆ニ借り得テ之ヲ模寫ス秘シテ他見ヲ許

禁サミルモノナリトアリ

寫本

一冊

禁中年中行事一卷

寫本

一冊

享保二年林春齋ノ跋ニ曰ク此一冊ハ禁中侍衛人士

秘スル所年中行事元本ヲ借テ之ヲ寫シ家藏已ニ久シ

今新タニ一本ヲ書シテ進獻ストアリ 一冊

禁中當時年中行事略一卷 寫本 一冊

奧書ナシ年月詳ナラズ 一冊

年中行事秘抄一卷 寫本 一冊

奧書ニ曰ク永仁ノ比之ヲ書始メラル、處自然ニ閣キ

畢ヌ嘉曆ノ比寫功ヲ終ラシムルモノナリ外見許ス可

ラザルカトアリ其ノ他建武元年藤原長光承應三年藤

原宣順ノ奧書アリ 一冊

新撰年中行事一卷 寫本 一冊

撰人姓名氏詳ナラズ奧書ナシ年月詳ナラズ 一冊

當今年中行事一卷 寫本 一冊

奧書ナシ年月詳ナラズ 一冊

禁中年中行事略一卷 寫本 一冊

已ニ著録セル本ト異ナリ奧書ニ曰ク右年中行事ハ菊

亭殿作り給ス所ナリ處々ヲ抜キ人傳ニ聞レ事トモヲ

假名書ニ傳ヘ侍ルトアリ 一冊

年中行事抄三卷 寫本 一冊

撰人姓名氏ヲ著サズ年中行事ノ注釋ニシテ公事恒例

起原ヲ能ク詳ニセリ序跋ナシ 一冊

後水尾院當時年中行事二卷

寫本

二冊

後水尾天皇御撰御製ノ序ニ曰ク順徳院ノ禁秘抄後醍  
 醐院ノ假名年中行事ナド言ヒテ禁中ノ事トモ書セ給  
 へルモノアリ誠ニ末ハ龜鑑ナリサレド此ノ項ノ有様  
 三符合セズ其ノ故イカナレバ世降り時移リ廻リ應仁  
 亂ヨリ諸國ノ武士己々力ヲ争ヒテ私領寺領公私  
 禁所領ヲ押領スル口ト數フルニ暇アラズ是ヨリ此ノ  
 方宮中日々ニ零落シテ盡ク保元建武ノ昔ニ似ルベク  
 當モアラズ時アリテ内大臣信長公天下ヲ掌内ニシテ  
 漸ク朝廷ヲ經營スル事ニ成リ不就中東照宮叛逆

凶徒ヲ平ゲ四海ノ浪風ヲ静メ絶タルヲ繼ギ廢タル  
 不ヲ起シ上ヲ尊敬シ下ヲ慈愛セラル、志深カ、リシカ  
 バ金閣再ビ光ヲ輝カシ相繼ギテ台徳院大相國今ノ征  
 夷將軍左府ニ至テ忠節ヲ盡シ殊ニ百敷ノ古キ軒端ヲ  
 改メテ玉ヲ磨キナセル功他日ニ倍セリ然ハアレド萬  
 事猶寛正ノ頃ニ及ハザルベシ御禊大嘗會其ノ外ノ  
 諸公事モ次第ニ絶テ今ハ跡モナキガ如クニナレバ再  
 興スルニ便リナシ何事モ見ルガ中ニ變リ行ク末ノ世  
 ナレバ責テ衰微ノ世ノタハスマヒヲダニ失ハデゴソ  
 アラマホシキニ夫ダニ又覺束ナクナリモテ行カン事

ノナゲカハレケレバ見テ知リ聞テ知ル人ノタドタド  
 レキ事ニハアラネド思ヒ出ルニ隨ヒテ書付侍リ又疎  
 キ人ニハ夢々見セシキモ中ニゴソトス味ハ由  
 近代年中行事細記一卷 寫本 一冊  
 寶永六年河合重淳奥書ニ曰ク此ノ一冊ハ柳原亞槐藤  
 資廉卿ノ編集スル所ニシテ小野泉州紀氏辰ノ秘書ナ  
 り予竊ニ之ヲ授カルコトヲ得テ漫ニ之ヲ謄寫ス刀刁  
 ノ訛ヲ恐レテ手ヅカラ臨書スルノミトアリ  
 本朝月令一卷 寫本 一冊  
 撰人ノ名氏詳ナラズ漢文ノ年中行事ナリ此ノ本第二

卷ノ殘缺ナリ三月ヨリ六月ニ至ル事ヲカヘテ  
 後醍醐天皇日中行事一卷 寫本 一冊  
 此ノ書後醍醐天皇御撰ナリト假名年中行事奥書ニ見  
 エタリ一ニ禁中日中行事ト名ク毎日早朝卯時ニ主殿  
 ノ司ノ朝清スルヨリ夜ノ御殿ノサレ油ノ事ニ至ルマ  
 テ禁中日々ノ行事ヲ記シタマフモノナリ大永七年藤  
 原資直ノ奥書ニ明會ノ禁中日中行事ノ事ニ至ルマ  
 大内裏行事圖四十二張 寫本 四十二張  
 禁中容事ノ圖式ナリ祈年祭ノ圖ヨリ於鼓吹司試生等  
 ノ圖ニ至ル

近代臨事公事一卷 寫本 一冊

此ノ書ハ寛永年間行フ所臨事公事ノ筆記ナリ

禁裡雜記一卷 寫本 一冊

此ノ書ハ首二三節會次第ヲ載セ以下禁中雜事ノ筆記

ナリ

禁裡御内々近代有之行事一卷 寫本 一冊

平田職資撰ス奥書ニ曰ク右ハ近代内々ニテ年中之

儀ニテ此内古コレアリ候行事ノ名目ヲ形カサリ執

行セテ候コトモコレアリ又古ハ一向コレナキ名目

ニ候ヘドモ近代内々ニテ行ハル事モコレアリ候ヲ

累年書集ノ置候云ヤトアリ年月詳ナラズ  
即位式一卷 寫本 一冊

此ノ書御即位ノ式并ニ大嘗會ノ事ヲ記セリ奥書ニ曰

此ノ抄ハ一條禪閣御作ナリ重テ尋申條々追テ之ヲ

書加ヘ畢又宗祇トアリ

御即位次第一卷 寫本 一冊

奥書ナニ年月詳ナラズ

淳和天皇即位記一卷 寫本 一冊

弘仁十四年四月淳和天皇踐祚ノ記録ナリ

後三條院御即位記一卷 寫本 一冊



治曆四年七月後三條天皇踐祚ノ記録ナリ  
永仁御即位録一卷 寫本 一冊

永仁六年八月伏見天皇位ヲ後伏見天皇ニ讓リ給フ時  
出納左衛門少尉兼中宮屬安陪親景ノ注進狀ナリ慶長  
十五年中原職忠ノ奥書アリ 一冊

御即位略次第一卷 寫本 一冊

正親町天皇及後陽成天皇御即位ノ記録ナリ  
御代始之式一卷 寫本 一冊

享保二十年三月櫻町天皇御即位ノ記録ナリ  
御即位次第第一卷 寫本 一冊

三條實繼撰ス御即位ノ式ヲ記セリ奥書ニ曰ク三條前  
内府實繼公本記ヲ以テ寫了ルトアリ

文安御即位調度圖一卷 寫本  
卷末ニ文安元年正月書寫セシメ藤原光忠トアリ此  
ノ圖原横披ナリシヲ伊勢貞丈更ニ寫シテ冊子トナス  
モノナリ世恭ノ跋ニ曰ク此ノ圖文安即位圖ト云フ卷  
尾ニ文安元年正月寫ト記セリ恭按ズルニ後花園帝正  
長元年七月踐祚アリ翌年十二月即位行ハル其ノ年  
永享ノ改元アリ夫ヨリ十二年アリ嘉吉又後五年甲  
子ノ歳文安ト改元アリ即位ノ後十五年ニ及テ兩度登

極ノ禮行ハルベキ謂レナシ此ノ圖ノ注ニ大極殿ノ事  
アリ大極殿ハ治承元年焼亡アリテ後再興ナク夫ヨリ  
後ハ即位ノ儀式モ太政官廳ニテ行ハレトゾ此ノ圖  
ハ未ダ其ノ殿ノ亡ビガル比ノ大禮儀物ヲ圖ニ置ケル  
ニヤアラシ貞觀儀式ヲ以テ此ノ圖ニ互勘スルバ大舍  
人寮執儀物大概同シ燾幡鼓鉦等ハ圖ノ數少ク加之中  
務省衛門府ノ儀仗前後錯綜シテ辨ジ難シ此ノ圖ニ副  
大ヘタル冠服ノ圖モアルベキニ今存セズ何レノ時ヨリ  
カ傳ヘタル古圖ノ在リケルヲ光忠トイフ人文安元年  
ニ寫シケルヨリ誤テ文安即位圖ト云傳ヘシナラシ文

安ノ比室町家ノ後既ニ八世衰亂ノ時如何ゾ此ノ圖セ  
ル如キ禮典ノ具備セルコトアラシ是ヨリ先承元御即  
位ノ記光明峰寺殿下ノ玉藻ニ見エタリ其ノ式已ニ當  
代ト同シ况ヤ其ノ後ヲヤ暫ク疑ヲ存シテ有識ノ定説  
ヲ俟ツ貞丈曰ク按ズルニ右世恭ノ説確論ト謂フベシ  
然レバ則題號文安ノ二字刪リ去テ可ナリ好古小録ニ  
曰ク此ノ卷圖スル所皆古制ヲ考フベシ但圖ノ細密ナ  
ラザル遺恨ト云ベシ  
即位灌頂事一卷 寫本  
此ノ書御即位灌頂ノ事ヲ記ス二篇アリ前ヲ藤原冬良

ノ記後ヲ藤原定基ト記トナス  
御即位灌頂一卷 寫本 一冊

灌頂ノ法ヲ録ス高山寺本ヲ以テ之ヲ寫スト卷首ニ記  
セリ 一冊

永徳讓位記一卷 寫本 一冊

永徳二年四月後圓融天皇位ヲ後小松天皇ニ讓リ給フ  
時ノ記録ナリ 一冊

御讓位次第一卷 寫本 一冊

享保二十年中御門天皇位ヲ櫻町天皇ニ讓リ給フ時ノ  
記録ナリ 一冊

延享四年御讓位次第一卷 寫本 一冊

延享四年五月櫻町天皇位ヲ桃園天皇ニ讓リ給フ時ノ  
記録ナリ 一冊

御讓位方傳奏御奉書分下書一卷 寫本 一冊

後花園天皇寛政五年御讓位ノ時ノ記録ナリ 一冊

御讓位警固固關已下交名一卷 寫本 一冊

御讓位ノ式ニ列リシ人名録ナリ 一冊

御即位見聞私記一卷 寫本 一冊

平興胤撰ス寶永七年十一月中御門天皇踐祚ノ記事ナ  
リ 一冊

劔璽渡御行列書一卷 寫本

一冊

劔璽渡御鹵簿ノ次第ヲ記セリ奥書ナシ  
御即位式建繪圖

一具

寶永七年中御門天皇御即位ノ圖式ナリ人物器財ヲ剪  
裁シテ之ヲ並列シ當時ノ禮式ヲ觀ルガ如クナラシム  
ルモノナリ

御元服次第一卷 寫本

一冊

皇太子御元服ノ式ヲ録ス奥書ナシ年月詳ナラズ

皇太子御元服次第一卷 寫本

一冊

此ノ書モ御元服ノ式ヲ録スル者ナリ但前ト同ジカラズ

東宮御元服次第一卷 寫本

一冊

貞享四年ノ御元服ノ次第ナリ御讓位御即位ノ次第ヲ

附ス

立太子次第立后次第一卷 寫本

一冊

寶永五年二月太子ヲ立ツルノ式同年同月后ヲ立ツル

ノ式ヲ記セリ

安永十年正月元日天皇御元服次第一卷 寫本

一冊

同後宴次第一卷 寫本

同七日賀表白馬次第一卷 寫本

安永十年 是ノ年四月天 正月光格天皇御元服ノ記録ナ

文化八年東宮御元服次第并散狀一卷 寫本 一冊

文化八年三月仁孝天皇御元服ノ記録ナリ

三中口傳二卷 寫本 二冊

此ノ書三條中山兩家ノ記録ニシテ朝儀故實ヲ記スモ

ノナリ大永五年二條尹房ノ奥書アリ同日立マ

魚魯愚鈔八卷別録七卷 寫本 十八冊

編輯者ノ名氏ヲ著サズ此ノ書内豎所作物所御書所諸

行事所諸院別當諸社諸寺等ノ古文書ヲ輯録スルモノ

東ナリ別録ハ諸式故實ノ事ヲ記ス序跋ナシ

名目鈔一卷 刊本 一冊

藤原實熙撰ス此ノ書門類ヲ分ツコト十二ナリ恒例諸

公事篇ニ始リ文書篇ニ終ル都テ名目ノ訓讀ヲ正シ

モノナリ但車具篇文書篇名アリテ子目ナシ明應九年

姉小路濟繼奥書ニ曰ク右一冊不慮ニ披見ノ間卒ニ之

ヲ寫ス東山左府實熙公自筆ナリ件ノ本草本カ或ハ篇

目アリテ其父子細ヲ載セズ或ハ之ヲ翻轉シ鈎引スル

所ノ大略本ノ如ク之ヲ寫シ少々又令按ヲ加フ云々自

序アリ年月ヲ記サズ群書一覽ニ一名禁裡仙洞小名目

ト蹄スト云リ速水房常按刻本ハ禁中方名目抄ト題セ

行類抄七卷 寫本

七冊

編輯者ノ名氏ヲ著サズ恒例臨事節會ノ事ヲ類ヲ分チテ記セリ寛文六年中原師定ノ奥書アリ元禄二年水戸彰考館史官ハ跋ニ云ク此ノ書援引ヲ標スル或ハ一字ヲ用キル山槐書山中右書中ノ類是ナリ或ハ偏傍ヲ用キル坊槐書坊木師時書巾寺ノ類是ナリ康永延文中ノ日記門ノ字ヲ用キテ識トナスモノアリ今園太曆ヲ考フルニ此ノ書引用スル所ト符合ス便是園太曆ニシテ門ニ作ルモノ轉寫ノ誤ナルコト言ハズシテ知ルベシ

白原本分テ拾冊トナス今七本ニ合ストアリ

傳宣草三卷 寫本

一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ編ハ口宜宜旨等ノ草案ヲ集ムルモノナリ外記内記下辨官三卷ニ分チ攝官雜事ヲ

附録ス

吉部秘訓抄五卷 寫本

二冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ朝廷ノ故實ヲ輯録セルモノ卷四ノ末ニ延徳四年藤原親長ノ奥書アリ

世俗淺深秘抄二卷 寫本

二冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ書朝儀故實并ニ行幸ノ事ヲ



依リテ攝政康道公調進セラル云々于時正保四年トア  
敷リ天和三年黃門郎源某寶曆十年藤原公達ノ奥書アリ  
練歩次第一卷 寫本 一冊

延寶五年藤原雅房ノ奥書アリ 寫本  
踏歌節會次第一卷 寫本 一冊

天和三年及寶永五年ノ奥書アリ 寫本  
新嘗祭次第第二卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ奥書ナシ 寫本  
豐明節會次第一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ奥書ナシ 寫本

承安五節圖一卷 寫本 一軸

承安元年五節ノ畫卷ナリ詞書アリ藤井貞幹好古小録  
ニ曰ク光長寫ス所ノ畫卷ヲ以テ光信屏風一坐ニ寫シ  
テ畫卷ハ傳ハラズ今ノ畫卷ハ御厨子所預宗直朝臣屏  
風ノ摸本ヲ以テ畫卷トナス者ナリ 寫本

天仁大嘗會記一卷 寫本 一冊

貞享四年紀宗恒奥書ニ曰ク右天仁元年十一月廿一日  
大嘗會記ハ前權中納言大江匡房卿ノ記ナリ端一枚破  
損シ午日以下其記ナシ蓋當時傳寫ノ人功ヲ終ラザル  
カ惜ムベシ今年大嘗會ニ就テ大外記中原師庸朝臣傳



奏庭田黃門重條卿ヲ以テ攝政殿ニ獻ス御覽後此ノ記  
ノ事伏見院心日御記中ニ於テ匡房卿ノ記タル事分明  
ナリ仍テ龜鑑トカスズキ由仰セ下サル云々トアリ元  
祿二年紀氏辰ノ奥書アリ  
即位御禊大嘗會記一卷 寫本 一冊

此ノ書御即位式御禊行幸事大嘗會ノ事ヲ記セリ奥書  
ニ曰ク文明十年二月僧宗祇ノ所望ニ依テ筆ヲ馳セ畢  
ル後成恩寺禪閣トアリ文明十一年卜部兼俱ノ附録アリ  
大嘗會私記一卷 寫本 一冊

貞享四年十一月園權大納言基勝卿ノ記ス所大嘗會

ノ式ナリ  
大嘗會記一卷 寫本 一冊

此ノ書ハ大嘗會ノ記録ヲ集メタルモノナリ  
大嘗會式一卷 寫本 一冊

大嘗會ノ年月詳ナラズ  
大嘗會ノ年月詳ナラズ  
大嘗會卯日次第一卷 寫本 一冊

貞享四年大嘗會略次第一卷 寫本 一冊

已ニ著録セル大嘗會私記ト同時ノ記ナリ

大嘗會下行記一卷

寫本

一冊

此ノ書ハ大嘗會ノ經費録ナリ奥書ナシ年月詳ナラズ  
元文三年大嘗會次第一卷

寫本

一冊

大嘗會ノ式ヲ記セリ

大嘗會儀式具釋九卷

寫本

五冊

荷田在滿撰ス此ノ書ハ櫻町天皇元文三年十一月大嘗  
會ノ儀式ヲ録シ事物名義ヲ具サニ注釋セルモノナリ

序跋ナシ

大嘗會便蒙二卷

寫本

一冊

荷田在滿撰ス元文四年自序ニ曰ク予幸ニ大禮ヲ記シ

得ルノ鴻命ヲ奉ジテ去歲仲冬傳馬ニテ浴ニ到リ會重

服アリテ宮城ニ入ルコトヲ得ズト雖ヘドモ東ニ馳セ

西ニ驅ケテ略其ノ趣ヲ明ニシ朝ニ問ヒ夕ニ正シテ漸

ク其ノ奧ヲ得タリ今春東ニ飯炊之ヲ筆録シ國郡卜定

ヨリ豐明節會ニ至ルマデ當時ノ進退巨細悉ク擧ガ上

世ノ規式參差ハ必<sup>ズ</sup>附シ分テ九卷

即前ノ儀式具釋ナリ

以テ當時ノ次第ヲ釋

今其方由<sup>リ</sup>奉幣以上辰ノ日節會以下ニ於テハ唯其ノ

大體概<sup>テ</sup>述<sup>ス</sup>之ヲ前後ニ加ヘ以テ門生及就テ問フノ

客ニ示ヌ之ヲ九卷ノモノニ比スレバ則十ノ一ノミ云

大嘗會式一卷 刊本

今上天皇明治四年十一月大嘗會ノ式ヲ記ス

後深草院石清水御幸記一卷 寫本

藤原賴親撰ス文應元年八月御幸ノ記ナリ延寶七年林

整宇ノ跋ニ曰ク記中ニ所謂一院ハ後嵯峨帝ナリ新院

ハ後深草帝ナリ頃間加賀中將新ニ寫シテ余ニ贈ラル

乃以テ家藏ノ一珍トナスナリ

日吉社并叡山行幸記一卷 寫本

後醍醐天皇元德二年三月日吉社及叡山行幸ノ記ナリ

按ズルニ此ノ本原畫圖ヲ插ミテ横卷ナリシヲ後ニ冊  
子トナスモノニシテ詞書ノミニテ繪ハ缺キタリ

日吉社行幸雜事一卷 寫本

此ノ書ハ行幸供奉ノ雜錄ナリ奥書ナシ年月詳ナラズ

平野行幸次第一卷 寫本

明曆四年林春齋ノ跋ニ曰ク此ノ一冊平野行幸ノ例ヲ

記ス未何レハ世タルヲ知ラズ又誰ガ作タルヲ知ラズ

ルナリ蓋其ノ時ニ臨テ舊記ヲ抄出スルモノカ一日偶

松平主殿頭忠房ノ宅ニ赴キ之ヲ借り之ヲ寫ス此ノ冊

ヲ見ルトキハ則他社行幸ノ式モ推テ知ラルトアリ

高野山御參詣記一卷 寫本

一冊

後冷泉天皇永承三年十月行幸ノ記ナリ興田吉從跋云  
曰ク右永承三年高野山御參詣記古卷原本ハ應徳二年  
正月法勝寺用途注進狀及治暦二年八月十三日御祈願  
所用途狀等背紙ニ寫ス所ナリ者卷元横披一軸トナス  
東寺觀智院藏スル所ナリ文化十一年彼ノ院ヲ訪ヒ之  
ヲ臨寫ス云々トアリ 寫本

八幡御幸次第一卷 寫本

寫本

一冊

藤原雅俊撰ス永仁七年龜山帝伏見帝石清水御幸ノ記  
ナリ

龜山殿行幸記一卷 寫本

寫本

一冊

源雅言撰ス文永五年十月後深草上皇龜山殿ニ行幸ノ  
時ノ記録ナリ

後宇多灌頂記一卷 寫本

寫本

一冊

藤原實任撰ス嘉元四年九月後宇多上皇灌頂ノ式ノ記  
録ナリ

石清水放生會記一卷 寫本

寫本

一冊

卜部兼治撰ス後小松天皇明德四年八月十五日石清水  
八幡社放生會ノ記ナリ

宇治御幸記一卷 寫本

寫本

一冊

後深草天皇寶治二年十月宇治行幸ノ日記ナリ  
繼塵記一卷 寫本

藤原實任撰スル繼塵記中ノ神社御幸ノ部ヲ抄出シタルモノナリ花園天皇延慶四年三月ヨリ後醍醐天皇元應三年正月ニ至テ十一年間石清水北野等へ御幸ノ事ヲ記セリ  
節會行幸次將條々一卷 寫本

寛文二年ノ奥書アリ  
一冊

永徳行幸記一卷 寫本  
撰人ノ名氏詳ナラズ永徳元年三月後圓融帝足利義滿

ノ室町ノ第三行幸ノ事ヲ和文ニ記セリ卷首ニサカユ

ク花上ト書レ注ニ行幸天杯ノ記舞樂トアリ寛永三年

源通村ノ奥書ニ曰ク官庫本ヲ申レ出シ 後柏原院宸筆仍テ大概本書

ノ如ク卒ニ筆ヲ馳ラス其ノ後燈下ニ於テ一技レ了件

ノ御本上卷一冊ナリ求出スニ隨テ書キ續クベキナリ

林鷲峰曰ク此ノ一帖稀ニ之ヲ見ル然レモ下卷足ラズ

遺念少カラズ

北山行幸記一卷 寫本

中山宣親撰ス應永十五年三月後小松帝足利義滿北山ノ山庄ニ行幸ノ和文ノ記ナリ大永五年藤原氏直ノ奥

書アリ  
北山行幸次第第一卷 寫本 五年三月刻小治帝一冊 齋藤北山

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ書モ應永十五年北山行幸ノ

記録ナリ奥書ナシ

行幸記一卷 寫本 一冊

永享九年十月二十一日後花園帝足利義教ノ第二行幸

ノ記録ナリ

寛永行幸記三卷 寫本 一冊

寛永三年九月六日後水尾帝二條城ニ行幸ノ時ノ筆記

ナリ序アリ名氏ヲ記サズ

一冊

寛永行幸記一卷 寫本

一冊

釋崇傳撰ス前ト同時ノ筆記ナリ自序アリ崇傳ハ南禪

寺ノ僧ナリ晚ニ圓照本光國師ノ號ヲ賜フ

享保六年修學院御幸記一卷 寫本 一冊

享保六年九月二十七日靈元法皇修學院ニ御幸ノ記録

ナリ

享保七年九條亭御幸儀一卷 寫本 一冊

享保七年三月二十七日靈元法皇九條輔實ノ第二御幸

ノ記録ナリ

侍中群要十卷 寫本 三冊

橋廣相撰ス藏人ノ職掌ニ關スル事ヲ詳ニ記セリ唐  
侍中ハ我が藏人ニ相當セルヲ以テ侍中群要ト名ク  
ルナリ

上卿故實一卷 寫本 幸勘一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ公卿ノ故實ヲ記ス凡五十五條奧  
書ナリ

廂饗次第一卷 寫本 幸勘一卷 寫本 一冊

文治五年七月十日花山院廂饗ノ式ヲ録ス奧書ナリ

廂饗圖一卷 寫本 幸勘一卷 寫本 一冊

全上廂饗ノ圖式ナリ

治曆二年大饗記一卷 寫本

治曆二年正月二十二日左大臣教通二條亭ニ於テ大饗

アリレ時ノ記録ナリ

太政大臣御上表雜事一卷 寫本

正安元年藤原公守太政大臣ヲ辭スル時上表ノ式ヲ記

御昇壇記二卷 寫本

多田義俊撰ス此ノ書ハ中御門天皇東宮ニ立給ヒレヨ

リ御即位ニ至ルマデノ記録ナリ

諒闇御錫貯以下之事一卷 寫本 一冊

諒闇中衣服ノ記録ナリ

羽林秘抄一卷 寫本

一冊

藤原公種撰ニ此ノ書武官供奉ノ式ヲ記セ立文永二年

公種ノ與書其ノ他德治三年文明十一年ノ與書アリ

羽林類葉抄二卷 寫本

二冊

編輯者ノ名氏ヲ著サズ此ノ書武官扈從ノ式ヲ諸記

録ニ抄出シテ類ヲ分テ記セリ與書ナシ

諸次第一卷 寫本

一冊

關白宣下次第改元定次第等ヲ輯録ス粉本ニ依テ大樂

四條院御葬禮記一卷 寫本

一冊

仁治三年正月二十五日四條天皇葬儀ノ記録ナリ

龜山院御葬禮記一卷 寫本

西園寺左大臣公衡撰ス嘉元三年九月十七日龜山天皇

葬儀ノ記録ナリ

伏見上皇御中陰記一卷 寫本

撰人ノ名氏詳ナラズ與書ナシ

吉事略儀一卷 寫本

白葬式并ニ棺槨等ノ事ノ記録ナリ

新待賢門院七々忌御願文一卷 寫本

卷末ニ正平十四年六月十五日別當正三位行大納言兼



右近衛大將通冬奉敬白トアリ

渡御倚廬次第第一卷 寫本 一冊

自倚廬還御次第第一卷 寫本 一冊

諒闇中ノ式ヲ録ス延寶八年關白房輔公作テ進ルト記

外記政一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ外記政ノ記録ナリ

藏人頭拜賀并從事次第第一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ藏人頭拜賀ノ式ヲ録ス

定家釋奠錄一卷 寫本 一冊

藤原定家撰ス釋奠ノ式ヲ記セリ釋奠ハ年ニ兩度二月

ト八月トニアリテ上ノ丁日必行ハル若日蝕國忌祈

年ノ祭ナトニ當レバ中ノ丁ニアリ大學寮ニテ行ハル

孔子并ニ十哲影ヲ祭ルナリ文武天皇大寶元年始テ

之ヲ行ハル禮記玉制ノ篇ニ菜ヲ釋幣ヲ釋者先師ヲ禮

交ストアテ故ニ釋奠ト云フナリ

釋奠之記一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ寛政十二年八月幕府ニテ行ヒシ

釋奠ノ記ナリ

御八講記一卷 寫本 一冊

御八講記一卷 寫本 一冊

御八講記一卷 寫本 一冊

御八講記一卷 寫本 一冊

釋慧嚴撰一卷首ニ享保十八癸丑年十二月十三日ヨリ  
 同十七日ニ至ル東山院尊儀二十五回御追福ノ爲ニ  
 奉リ清凉殿ニ於テ宸筆御八講ヲ修セ奉依云々トアリ  
 當時諸人名録ナリ延寶八年關白房輔公任撰述  
 交替式一卷寫本 卷一ノ下  
 一冊

諸國司交替式ヲ記セリ天保五年伴信友與書ニ曰ク右  
 交替式古寫一軸石山寺襲藏スル所ニシテ秘シクシテ  
 人ニ示サズ偶聞ク一僧アリ懇請シテ之ヲ摸寫スルト因  
 テ一友人ニ就テ切ニ乞テ轉借スルコトヲ得テ人ヲ雇  
 ヒテ謄書シ即自ラ朱ヲ用キテ略訓點ヲ加ヘ且字ノ異

體ニ涉リ及誤寫ニ嫌シキ者モ亦之ヲ其ノ左傍ニ朱注  
 四ノテ以テ觀覽ニ便ストアリ

王食供進抄一卷寫本 卷一ノ下  
 一冊

藤原定基撰ス此ノ書ハ天子ニ飲膳ヲ進ムルノ事及其  
 法式ヲ記スモノナリ自序アリ書經洪範ニ曰ク惟辟  
 王食注云王食者下之所以奉上也供進者進食也云々書  
 二名クルハ義此ヲ取レルナリ元祿十年仲夏上旬之ヲ  
 草子羽林中郎將藤原定基春秋二十九歳ト卷後ニ記セ

大州内藤原定基繪圖一卷寫本 卷一ノ下  
 一冊

諒闇記一卷寫本 卷一ノ下  
 一冊

藤原兼良撰不諒闇中ノ式ヲ記セリ奥書ナシ

大膳職内藏寮供御調進圖一卷 寫本 一冊

奥書ナシ年月詳植和文卷末ニ右文簿注スル所如件仍テ勘

地下諸役記一卷 寫本 一冊

恒例臨時公事候時地下ノ者ノ務々ベキ事并ニ其ノ姓

名又記セリ

臨時祭記一卷 寫本 一冊

後小松天皇嘉慶元年賀茂臨時祭ノ記事ナリ

四節八座抄一卷 寫本 一冊

撰人ノ名氏ヲ著サズ此ノ書ハ節會ノ時諸官着座ノ式

又録ス延文五年寛永二十一年ノ奥書アリ

外記勘例一卷 寫本 一冊

此ノ書ハ辛酉ノ歳改元アル事ニ就キ外記勘文ノ例ヲ

記ス簿帳ヲ寫ナリ卷末ニ右文簿注スル所如件仍テ勘

申ス元文六年正月廿三日トアリ

不知記裏書二卷 寫本 二冊

何人ノ記録ナルヲ知ラザルモ是ハ裏書ノミヲ寫セル

女房私記一卷 寫本 一冊

此ノ書女房ノ年中行事ナリ

石清水八幡宮大會一卷

寫本

一冊

延寶七年八月石清水八幡宮ニ於テ放生會ニ記録ナリ

法皇九條殿饌物雜記一卷

寫本

一冊

享保七年三月二十七日靈元上皇九條輔實ノ亭ニ御幸

不アリシ時供御ノ食單ナリ

コシダチカキ

一冊

符案一卷

寫本

一冊

太政官符文案ヲ集メタルモノナリ編輯者ノ名氏詳ナ

ラズ書ハ辛酉ノ秋

ノ

一冊

兩立記一卷

寫本

一冊

天和三年立坊立后ノ記録ナリ

畫御膳次第一卷

寫本

一冊

與書ニ此ノ一帖當時内膳司ノ次第ナリ明曆元年十月

日トアリ

ノ

一冊

御教書案一卷

寫本

一冊

恒例臨時公事ノ御教書案ヲ集ム文明十四年ヨリ永正

五年ニ至ル與書ナシ

ノ

一冊

宣秀卿御教書案一卷

寫本

一冊

此ノ書モ文明年間ヨリ明應ニ至ル御教書案ヲ集メタル

モノナリ慶安元年權大納言經廣ノ與書アリ

年中下行一卷

寫本

一冊

此ノ書ハ年中ノ公事其ノ他ノ經費録ナリ卷末ニ貞享四年七月トアリ

參議外辨要抄一卷

寫本

承應元年奧書ニ曰ク此一冊中山定親卿御次第ナリ

持明院黃門ノ亭ニ於テ一覽ノ次ニ之ヲ書寫ス尤秘藏

スベキ者ナリ云々トアリ

放生會略次第一卷

寫本

石清水放生會ノ式ヲ録ス延寶七年景慶奧書ニ曰ク右

ノ次第上卿勸修寺大納言經慶卿ノ御新作ナリ申シ請テ之ヲ寫シ畢ルトアリ放生大會總次第ヲ附セリ

參宮儀一卷

寫本

伊勢兩宮奉幣使參宮ノ式ヲ記セリ作者詳ナラズ

雅賴卿次第一卷

寫本

此ノ書叙位ノ次第ヲ記セリ奧書ニ元曆元年五月日左

府ノ仰ニ依テ之ヲ注出シ西宮抄北山抄經信卿家記柱

下次第等ヲ以テ本書トナシ取捨ノ間定テ僻案アラシ

カ退テ之ヲ勘ヘ直ス正二位源雅賴トアリ

寶曆四年八月廿五日御得度次第二卷

寫本

和義親王御得度ノ記録ナリ

天和三年立坊立后記一卷

寫本

一冊

大己ニ著録セル兩立記ト同書ナリ  
奉對案一卷 寫本

一冊

賀茂真淵撰ス卷首ニ云ク寛延二年二月仰ニ依テ之ヲ  
記ス同四月中旬仙洞先帝御遠忌ノ料ニ備スルナリ其  
ノ目ハ法華三昧例時光明供鬘茶羅供御經供養結縁灌  
頂ナリ卷後ニ誌シテ曰ク右ノ外道場進退調度等必ズ知  
リオクベキ事數ヲ可ラズト雖ヘドモ暗記ニ難自トバ  
見當ルモノ一二ヲ記シテ獻ズ總テ右ノ數條從來臣知  
ルコトナシ記録ニ涉テ注ス故ニ既ニ三十日ヲ經レド  
モ猶未全キヲ得ザルノミトアリ

恒祀事略一卷 刊本

一冊

矢野玄道撰ス凡例ニ曰ク古代ノミ行ハレテ今廢レタ  
ルモ大事ト覺ユルハ皆記シテ竊ニ他年ノ御盛舉ヲ待  
ツ又云ク大内ノ御大儀ハ神事ニ非ラザルモ間之ヲ載  
スルモノアリ朝賀三節會ノ類ノ如キ是ナリ元治元年  
刊本

御即位部類一卷 寫本

一冊

保安四年二月崇徳天皇御即位ノ記ヲ輯録ス  
四方拜部類一卷 寫本  
四方拜ノ事ヲ諸家記録ヨリ抄聚セルモノナリ

永徳御讓位部類一卷 寫本

一冊

永徳二年四月後圓融天皇位ヲ後小松天皇ニ讓リ給フ

時ノ記録ヲ集メタルモノナリ

御讓位部類一卷 寫本

一冊

承元四年十一月土御門天皇位ヲ順徳天皇ニ讓リ給ヒ

シ時ノ記録ナリ

御幸始部類一卷 寫本

寫本

正元元年十二月新院後鳥羽帝御幸始ノ記録ヲ集ム

東宮御書始部類記一卷 寫本

寫本

一冊

東宮御書始ノ記録ヲ集ム奥書ニ云ク右東宮御書始部

類記一馬大珍書ナリ秘スベシ秘スヘシトナリ

東宮冠禮部類記一卷 寫本

寫本

一冊

皇太子冠禮ノ式ヲ諸家記録ヨリ抄集セルモノナリ

元服部類二卷 寫本

寫本

二冊

公卿元服ノ式ヲ諸家記録ヨリ抄輯セルモノナリ

改元部類六卷 寫本

寫本

一冊

改元ノ事ヲ水左記園太曆其ノ他家記ヨリ抄集セルモノ

ナリ

改元部類記一卷 寫本

寫本

一冊

是ハ吉續記中改元ノ事ヲ抄出セルモノナリ

朝覲部類一卷 寫本 一冊

天皇ノ上皇或ハ法皇ニ朝覲ノ記録ヲ集メタルモノナ

リ

口言部類一卷 寫本 一冊

大乗會其ノ他佛事ノ記録ヲ集ム中御門右府宗忠ノ抄

本ナリ天明元年ノ奥書アリ

外記政部類二卷 寫本 一冊

外記政ノ記録ヲ集メタルモノナリ

拜賀者陣部類二卷 寫本 二冊

拜賀ノ時諸官着陣ノ式記録ヲ集メタルモノナリ

上表部類二卷 寫本 一冊

公卿辭職上表ノ事ヲ家記ヨリ抄聚セルモノナリ

中殿御會部類記一卷 寫本 一冊

中殿和歌御會ノ記録ヲ集ム

祈年穀奉幣部類一卷 寫本 一冊

祈年穀奉幣ハ二月七月兩度ニ吉日ヲ擇ビテ行ハル、

公事ニテ二十二社ニ奉幣使ヲ遣ハサル、コトナリ其

二事ノ記録ヲ抄聚ス

大嘗會部類記二卷 寫本 二冊

大嘗會ノ記録ヲ集ム長和元年ヨリ應永二十年ニ至ル



新嘗祭部類一卷 寫本

大新嘗祭ノ事ヲ諸家記録ヨリ抄聚セルモノナリ

二宮大饗部類一卷 寫本 一冊

中宮東宮大饗ノ記録ヲ集メタルモノナリ

釋奠部類一卷 寫本 一冊

二月八月兩度ノ式ヲ諸家記録ヨリ抄集セルモノナリ

御着帶部類一卷 寫本 一冊

中女院着帶ノ記録ナリ

御産記部類一卷 寫本 一冊

皇后及女院御産ノ記録ヲ集メタルモノナリ

元永御産部類一卷 寫本 一冊

元永二年二月中宮御産ノ記録ナリ

供御藥部類一卷 寫本 一冊

供御藥ハ元三ニ行ハル、公事ナリ其ノ式ヲ家記ヨリ

抄集セルモノナリ

御齋會部類一卷 寫本 一冊

御齋會ハ正月八日ヨリ十四日ニ至リテ七日ノ間大極殿

於テ寂勝王經ヲ講ゼラレテ國家護持ヲ祈ル公事ナリ

其ノ記録ヲ集ム

院號定部類記一卷 寫本 一冊

院號定部類記一卷 寫本

院號定ノ記録ヲ集ム弘安七年ヨリ德治二年ニ至ル

院宮拜禮部類一卷 寫本 一冊

院宮拜禮ノ事ヲ諸家記録ヨリ抄集セルモノナリ

御禊行幸服色部類記一卷 寫本 一冊

御禊行幸ノ時供奉ノ公卿ノ服色ノ事ヲ記セリ

御修法部類記二卷 寫本 二冊

永正十六年釋嚴助奥書ニ曰ク右件記ハ祖師前大僧正

宗親宗濟兩御代大法小法公武數度御勤仕ノ御記ナリ

形ノ如ク御草案アリト雖ヘドモ散失ヲ恐レ類集セシ

云々云々トアリ

觸穢服忌論部類一卷 寫本

一冊

觸穢及服忌ノ勘文ヲ家記ヨリ抄集セルモノナリ請假

部類ヲ附録ス

諸記勘例目錄五卷 寫本

五冊

編輯者ノ名氏ヲ著サズ此ノ書ハ禁中公事ノ諸家記録

ニ散在セル者ヲ搜索シ易カラシメンガ爲ニ事目ヲ標

シ記録ノ名ヲ擧ゲテ下ニ年號ヲ注ス例シテ言ハバ四

方拜ハ中右記ニテハ寛治四六八 康和四 明月記ニテハ建

永二 建曆三 吉續記ニテハ文永五ノ類ナリ以下皆此ノ

如シ序跋ナシ按ズルニ此ノ書天保ノ初昌平校ニテ編



博愛書目

天保元年  
...

土岐政孝

